

〇〇〇〇病院
院長 △△△△殿

研究協力をお願い

私は現在、聖路加国際大学大学院 博士後期課程に在籍しております。この度、「急性心不全患者における初回立位の可否に関連する要因の探索」を行う研究を計画しました。急性心不全患者に包括的な治療および看護を提供されている貴院でのデータ収集を許可いただきたく、お願い申し上げます。

【研究の目的と意義】

本研究は、内科的治療を受けている急性心不全患者の初回立位の可否に関連する要因を探索することを目的としています。この研究により立位が可能となる要因が分かれば、初回立位が可能となる看護ケアプログラムの開発に結びつき、早期から筋力低下を予防し患者の QOL の向上を目指す、医療と看護の貢献につながります。

なお、「初回立位」とは、集中治療室あるいは病棟に入院後、初めてベッドサイド立位になることです。

【研究の概要】

本研究は、チャートレビュー、質問紙調査、観察からなる記述相関的研究です。患者への介入は行いません。

1. 貴院に急性心不全により集中治療室あるいは循環器内科病棟に入院された患者 60 名を対象とさせていただきますよう、お願いいたします。
2. 患者の心不全の経過と入院経過について医療カルテの閲覧をご許可ください。
3. 患者に初回立位を行う前に、質問紙の記入をしていただきます。
4. 患者と看護師を含め、初回立位を行う場면을観察させていただきます。その後、立位ができたかどうかということを患者に伺います。また、初回立位時に立位ができなかった場合は、2 回目も観察させていただきます。
5. 看護師に初回立位後に立位ができたかどうかの判定をしていただきます。

【本研究協力のメリットとデメリット】

研究協力によるメリットは、心不全の治療などに伴う筋力低下による初回立位の可否に関連する要因が明らかとなり、初回立位が可能となる看護ケアの開発に繋がることです。また、デメリットは、質問紙の記入を行うことで心理的に負担がかかる可能性や、立位場면을観察されることで不快感を持つ可能性があることです。

【倫理的配慮】

1. 研究対象者(患者および看護師)に対して、研究者自身から口頭と書面にて研究の主旨を十分に説明し、承諾が得られた場合に同意書へ署名していただき、データ収集を行います。
2. 研究への参加は、研究対象者の自由意思です。研究へ参加されなかったり、途中で中断されることがあっても、今後の医療や看護に差し支えないことを説明いたします。
3. 研究対象者(患者)の初回立位場面を観察する際は、その実施および看護、医療の妨げにならないように細心の注意を払います。
4. 質問紙の実施により心理的ストレスが生じた場合は、担当医、看護責任者、担当看護師に報告いたします。対応の必要があると判断された場合は、貴施設で医療心理カウンセリングもしくは、それに準じるサポートを受けられるようご配慮をお願いいたします。
5. 研究過程で得られた情報は、研究以外の目的で使用されることは決してありません。また、収集したデータは個人が特定されないように ID 番号を付し、必ずパスワードをかけ保存するとともに鍵のかかる場所に保管し厳重に管理いたします。
6. 研究を途中辞退された研究協力者のすべてのデータは、同意撤回書が提出されたのち、速やかに消去およびシュレッダーで裁断し破棄します。
7. 個人が特定される資料は、研究の公表後 3 年間保存し、それ以降は速やかにシュレッダーで裁断し破棄します。
8. 本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会（承認番号：15-055）の承認を受けています。
9. 研究結果は、日本クリティカルケア看護学会で発表を行い、その後研究論文を投稿し、社会に還元します。

【研究者の準備段階】

私は、この領域における臨床経験として CCU で 6 年間、そして救命 ICU で 3 年間の臨床経験があり、急性心不全をはじめとした様々な急性期心疾患に対する看護に携わってきました。また、これまでも人工呼吸管理を受ける急性心不全患者に対する呼吸ケアに関する看護研究に 9 年間取り組んできました。

本研究についてご質問がありましたら、いつでもお問い合わせください。なお、本研究は、博士論文として、聖路加国際大学に提出の予定です。

研究者：関根 由紀

所属機関：聖路加国際大学大学院 看護学研究科 博士後期課程

所属機関住所：東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

連絡先：03-5550-2279

指導教員：菱沼 典子（聖路加国際大学 看護学部 基礎看護学教授）

本研究は、日本クリティカルケア看護学会の奨学金助成を受けています。

〇〇〇〇病院
循環器内科部長様

研究協力をお願い

私は現在、聖路加国際大学大学院 博士後期課程に在籍しております。この度、「急性心不全患者における初回立位の可否に関連する要因の検討」の研究を計画しました。この研究の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけるようよろしくお願いいたします。

【研究の目的】

本研究は、内科的治療を受けている急性心不全患者の初回立位の可否に関連する要因を探索することを目的としています。この研究により立位が可能となる要因が分かれば、初回立位が可能となる看護ケアプログラムの開発に結びつき、早期から筋力低下を予防し患者の QOL の向上を目指す、医療と看護の貢献につながります。

なお、「初回立位」とは、集中治療室あるいは病棟に入院後、初めてベッドサイド立位になることです。

【研究の概要】

本研究は、チャートレビュー、質問紙調査、観察からなる記述相関的研究です。患者への介入は行いません。

1. 患者の心不全の経過、入院経過などの情報につきまして、カルテの閲覧をさせていただきます。
2. 初回立位になられる前に、質問紙(HADS)に記入をしていただき、立位を行うことに対する思いを伺います。
3. 集中治療室もしくは病棟で実施する初回立位の場면을観察させていただきます。観察は初回としますが、初回立位時に立位ができなかった場合は、2 回目も観察させていただきます。
4. 立位ができたかどうかということを患者に伺います。

【協力いただきたいこと】

1. 貴院に急性心不全で担当部署に入院された患者 60 名のご紹介をお願いいたします。
2. 研究対象に該当する患者が病歴の聴取ができる状態、またはそれに準じた状態となったときに担当医もしくは看護責任者から研究者に紹介しても良いか、打診をお願いいたします。
3. 患者が鎮静管理等により意思疎通が図れない場合は、患者のご家族あるいはパートナーの方に、担当医もしくは看護責任者から研究者に紹介しても良いか、打診をお願いいたします。
4. 患者の心不全の経過、入院経過について医療カルテの閲覧をご許可ください。

【本研究協力のメリットとデメリット】

研究協力によるメリットは、心不全の治療などに伴う筋力低下による初回立位の可否に関連する要因が明らかとなり、初回立位が可能となる看護ケアの開発に繋がることです。デメリットは質問紙の回答を行うことで心理的に負担がかかる可能性があります。また、立位場면을観察されることで不快感を持つ可能性があることです。

【倫理的配慮】

1. 研究対象者(患者および看護師)に対して、研究者自身から口頭と書面にて研究の主旨を十分に説明し、承諾が得られた場合に同意書へ署名していただき、データ収集を行います。
2. 研究への参加は、研究対象者の自由意思です。研究へ参加されなかったり、途中で中断されることがあっても、今後の医療や看護に差し支えがないことを説明いたします。
3. 研究対象者(患者)の初回立位場面を観察する際は、その実施および看護、医療の妨げにならないように細心の注意を払います。
4. 患者に初回立位前に質問紙の実施と観察を行うことを口頭で説明し、了承を得ます。また、看護責任者あるいは担当看護師に改めて許可を得た上で実施し、患者への心理的負担とならないように留意いたします。
5. 質問紙の実施により心理的ストレスが生じた場合は、担当医、看護責任者、担当看護師に報告いたします。対応の必要があると判断された場合は、貴施設で医療心理カウンセリングもしくは、それに準じるサポートを受けられるようご配慮をお願いいたします。
6. 研究過程で得られた情報は、研究以外の目的で使用されることは決してありません。また、収集したデータは個人が特定されないように ID 番号を付し、必ずパスワードをかけ保存するとともに鍵のかかる場所に保管し厳重に管理いたします。
7. 研究を途中辞退された研究協力者のすべてのデータは、同意撤回書が提出されたのち、速やかに消去およびシュレッダーで裁断し破棄します。
8. 個人が特定される資料は、研究の公表後 3 年間保存し、それ以降は速やかにシュレッダーで裁断し破棄します。
9. 本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会（承認番号：15-055）の承認を受けています。
10. 研究結果は、日本クリティカルケア看護学会で発表を行い、その後研究論文を投稿し、社会に還元します。

【研究者の準備段階】

私は、この領域における臨床経験として CCU で 6 年間、そして救命 ICU で 3 年間の臨床経験があり、急性心不全をはじめとした、様々な急性期心疾患に対する看護に携わってきました。また、これまでも人工呼吸管理を受ける急性心不全患者に対する呼吸ケアに関する看護研究に 9 年間取り組んできました。

本研究についてご質問がありましたら、いつでもお問い合わせください。なお、本研究は、博士論文として、聖路加国際大学に提出の予定です。

研究者：関根 由紀

所属機関：聖路加国際大学大学院 看護学研究科 博士後期課程

所属機関住所：東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

連絡先：03-5550-2279

指導教員：菱沼 典子（聖路加国際大学 看護学部 基礎看護学教授）

本研究は、日本クリティカルケア看護学会の奨学金助成を受けています。

〇〇〇〇病院
看護師長様

研究協力をお願い

私は現在、聖路加国際大学大学院 博士後期課程に在籍しております。私は、CCU で 6 年間、そして救命 ICU で 3 年間の臨床経験があり、人工呼吸管理を受ける急性心不全患者に関する看護研究に 9 年間取り組んでおります。その中で、初めてベッドサイドに立位となったとき、立てず嘆く患者に数多く出遭いました。そこでこの度、「急性心不全患者における初回立位の可否に関連する要因の検討」の研究を計画しました。この研究の趣旨をご理解いただき、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

【研究の目的】

本研究は、内科的治療を受けている急性心不全患者が初めてベッドサイドで立った時に、立位が可能か否かの要因を探索することを目的としています。

【研究の概要】

本研究は、60 名の急性心不全患者を対象としたチャートレビュー、質問紙調査、観察からなる記述相関的研究です。患者への介入は行いません。

患者の心不全の経過、入院経過などにつきまして、医療カルテから情報収集をさせていただきます。また、患者に初回立位になれる前に質問紙(HADS)の記入と、立位を行うことに対する思いを伺いその場면을観察させていただきます。その後、立位ができたかどうかを伺わせていただきます。看護師にも立位ができたかどうかを判定していただきます。なお、立位場面の観察は初回としますが、初回立位時に立位ができなかった場合は、2 回目も観察させていただきます。

【協力いただきたいこと】

1. 貴院に急性心不全で担当部署に入院され、研究対象に該当する方に担当医もしくは看護責任者から研究者に紹介して良いか打診をお願いいたします。
2. 患者が鎮静管理等により意思疎通が図れない場合は、患者のご家族あるいはパートナーの方に、担当医もしくは看護責任者から研究者に紹介しても良いか、打診をお願いいたします。
3. 患者あるいは代諾者の了解があった場合、ご紹介ください。
4. 研究対象の患者を担当される看護師をご紹介ください。
5. 万が一、質問紙(HADS)を実施したことにより患者に心理的負担が生じた場合、貴院の医療心理カウンセリングもしくはそれに準じるサポートが受けられるよう、ご協力をお願いします。

【本研究協力のメリットとデメリット】

研究協力によるメリットは、心不全の治療などに伴う筋力低下による初回立位の可否に関連する要因が明らかとなり、初回立位が可能となる看護ケアの開発に繋がることです。また、デメリットは、質問紙の回答を行うことで心理的に負担がかかる可能性や、その場면을観察されることで不快感を持つ可能性があることです。

【倫理的配慮】

1. 研究対象者(患者および看護師)に対して、研究者自身から口頭と書面にて研究の主旨を十分に説明し、承諾が得られた場合に同意書へ署名していただき、データ収集を行います。
2. 研究への参加は、研究対象者の自由意思です。研究へ参加されなかったり、途中で中断されることがあっても、今後の医療や看護に差し支えがないことを説明いたします。
3. 研究対象者(患者)の初回立位場面を観察する際は、その実施および看護、医療の妨げにならないように細心の注意を払います。
4. 質問紙の実施により心理的ストレスが生じた場合は、担当医、看護責任者、担当看護師に報告いたします。対応の必要があると判断された場合は、貴施設で医療心理カウンセリングもしくは、それに準じるサポートを受けられるようご配慮をお願いいたします。
5. 研究過程で得られた情報は、研究以外の目的で使用されることは決してありません。また、収集したデータは個人が特定されないように ID 番号を付し、必ずパスワードをかけ保存するとともに鍵のかかる場所に保管し厳重に管理いたします。
6. 研究を途中辞退された研究協力者のすべてのデータは、同意撤回書が提出されたのち、速やかに消去およびシュレッダーで裁断し破棄します。
7. 個人が特定される資料は、研究の公表後 3 年間保存し、それ以降は速やかにシュレッダーで裁断し破棄します。
8. 本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会（承認番号：15-055）の承認を受けています。
9. 研究結果は、日本クリティカルケア看護学会で発表を行い、その後研究論文を投稿し、社会に還元します。

本研究についてご質問がありましたら、いつでもお問い合わせください。なお、本研究は、博士論文として聖路加国際大学に提出の予定です。

研究者：関根 由紀

所属機関：聖路加国際大学大学院 看護学研究科 博士後期課程

所属機関住所：東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

連絡先：03-5550-2279

指導教員：菱沼 典子（聖路加国際大学 看護学部 基礎看護学教授）

本研究は、日本クリティカルケア看護学会の奨学金助成を受けています。

研究の説明および協力のお願い

私は現在、聖路加国際大学大学院に在籍し、急性心不全患者様が安静治療後、初めてベッドから起き上がり、自力で立つことができるということが、どのようなことと関係しているのかについて調査しています。そこで、あなた様が初めて立位を行う時にいくつかの質問と、その場の観察をさせていただきたく、お願いいたします。研究結果は、みなさまと同じ状況にある方々への看護に生かしていきたいと考えております。

研究の説明や調査実施前は必ず、医師あるいは看護責任者から了承を得た上で伺います。

【研究の目的】

急性心不全患者が安静治療後、初めてベッドサイドに立った時に、立つことができる要因を調べることを目的としています。

【ご協力いただきたいこと】

- (1) 初めてベッドサイドに立つところを見せてください。立位ができなかった場合は、2回目まで観察させていただきます。
- (2) 初めてベッドサイドに立つ前に、項目数が 15 項目ある質問に回答いただきます。回答に要する時間は約5分を予定しています。
- (3) ベッドサイドに立ったあとに、立位になられた状態について伺わせていただきます。
- (4) 医療記録から今回の入院経過や病気に関する情報を閲覧させていただきます。

【本研究協力のメリットとデメリット】

研究協力によるメリット(利益)は、安静治療後初めて立った時に立つことができる要因が明らかとなり、初回の立位が可能となる看護ケアの開発に繋がることです。また、デメリット(不利益)は、質問紙に回答するのに負担がかかる可能性や、その場면을観察されることで不快感を持つ可能性があることです。

【ご協力いただく際の配慮】

- 研究への協力は自由意思です。研究に参加されなかったり、中断されることがあっても、治療や看護に差し支えはありません。
- 研究過程で得られた情報は、研究以外の目的で使用されることは決してありません。
- 記録は無記名で取り扱い、個人名が特定されないように配慮し、得られた情報はパスワードをかけ、鍵のかかる場所に保管し厳重に管理いたします。
- 研究終了後は、資料(同意書/同意撤回書)は3年間保存し、それ以降は速やかにシュレッダーで裁断し破棄します。
- 中断される場合は、同意撤回書に署名いただき、私もしくは当日担当する看護師に渡してください。
- 研究を中断された場合(同意撤回書を提出された場合)、収集したすべての情報は速やかに消去およびシュレッダーで裁断し破棄します。
- 研究結果は、学会および研究論文として発表いたします。その際も、個人が特定されないよう十分に配慮いたします。

私は、看護師として急性心不全患者の看護に9年間携わってきました。また、急性心不全患者に関する看護研究に9年間取り組んできました。皆様のご負担にならないように研究を進めさせていただきます。

本研究は、日本クリティカルケア看護学会奨学金助成を受けており、聖路加国際大学研究倫理審査委員会(承認番号:15-055)および研究施設の倫理審査委員会の承認を得ております。

以上のことを十分に理解いただいた上で、是非この研究にご協力いただけますように、ご検討お願いいたします。なお、本研究についてご質問等がありましたら、いつでも下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

研究者:関根 由紀

所属機関:聖路加国際大学大学院看護学研究科 博士後期課程

所属機関住所:東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

連絡先:03-5550-2279

指導教員:菱沼 典子 (聖路加国際大学看護学部 基礎看護学教授)

聖路加国際大学

学長 井部俊子 殿

研究への参加・協力の同意書

私は、「急性心不全患者における初回立位の可否に関連する要因の探索」について説明文書を用いて説明を受け、内容を理解し、この研究に参加・協力することに同意します。

日付： 年 月 日

研究協力者氏名（ご署名）： _____

代諾者氏名（ご署名）： _____

説明者（署名）： _____

聖路加国際大学 研究倫理審査委員会承認番号：15-055

聖路加国際大学

学長 井部俊子 殿

研究協力の同意撤回書

私は、「急性心不全患者における初回立位の可否に関連する要因の探索」について研究協力の同意しましたが、この度、同意を撤回することにしましたので、通知します。

日付： 年 月 日

氏名（ご署名）： _____

〇〇〇〇病院
看護師 各位殿

研究協力をお願い

私は現在、聖路加国際大学大学院 博士後期課程に在籍しております。私は、CCU で 6 年間、そして救命 ICU で 3 年間の臨床経験があり、人工呼吸管理を受ける急性心不全患者に関する看護研究に 9 年間取り組んでおります。その中で、初めてベッドサイドに立位となったとき、立てず嘆く患者に数多く出遭いました。そこでこの度、「急性心不全患者における初回立位保持に関連する要因の検討」の研究を計画しました。この研究の趣旨をご理解いただき、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

【研究の目的】

本研究は、内科的治療を受けている急性心不全患者が初めてベッドサイドに立った時に、立位保持ができる、できないかの要因を探索することを目的としています。

【研究の概要】

本研究は、チャートレビュー、質問紙調査、観察からなる記述相関的研究です。患者への介入は行いません。

患者の心不全の経過、入院経過などにつきまして、医療カルテから情報収集をさせていただきます。また、患者に初回立位になられる前に質問紙(HADS)の記入と、立位を行うことに対する思いを伺いその場면을観察させていただきます。その後、立位保持ができたかどうかを伺わせていただきます。看護師にも立位保持ができたかどうかを判定させていただきます。

【協力して頂きたいこと】

協力いただく方は、研究協力者（患者）を当日受け持つ看護師とします。

1. 初回立位時の関わりについて観察させていただきます。
2. 研究協力者の初回立位時の状態を以下の 5 段階で評価させていただきます。
 1. 一人で立つことができた
 2. 何かにつかまることで立つことができた
 3. 介助者がしっかり支えることで立つことができた
 4. 立位と同時に膝が折れてしまい、立てなかった
 5. まったく立てなかった

立位場面の観察は初回としますが、初回立位時に立位保持ができなかった場合は、2 回目も観察させていただきます。

【本研究協力のメリットとデメリット】

研究協力によるメリットは、心不全の治療などに伴う筋力低下による初回立位時の立位保持の状態に関連する要因が明らかとなり、初回立位保持ができるための看護ケアの開発に繋がることです。また、デメリットは、その場면을観察されることで不快感を持つ可能性があることです。

【倫理的配慮】

1. 研究者自身から口頭と書面にて研究の主旨を十分に説明し、承諾が得られた場合に同意書へ署名していただき、データ収集を行います。
2. 研究への参加は、研究協力者の自由意思です。研究へ参加されなかったり、途中で中断されることがあっても、看護業務に差し支えはありません。
3. 研究協力者の初回立位場면을観察する際は、その実施および看護、医療の妨げにならないように細心の注意を払います。
4. 患者が質問紙の実施により心理的ストレスが生じた場合は、担当医、看護責任者、担当看護師に報告いたします。対応の必要があると判断された場合は、貴施設で医療心理カウンセリングもしくは、それに準じるサポートを受けられるようご配慮をお願いいたします。
5. 研究過程で得られた情報は、研究以外の目的で使用されることは決してありません。また、収集したデータは、個人が特定されないように ID 番号を付し、必ずパスワードをかけ保存するとともに鍵のかかる場所に保管し厳重に管理いたします。
6. 研究を途中辞退された研究協力者のすべてのデータは、同意撤回書が提出されたのち、速やかに消去およびシュレッダーで裁断し破棄します。
7. 個人が特定される資料は、研究の公表後 3 年間保存し、それ以降は速やかにシュレッダーで裁断し破棄します。
8. 本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会（承認番号：15-055）の承認を受けています。
9. 研究結果は、日本クリティカルケア看護学会で発表を行い、その後研究論文を投稿し、社会に還元します。

本研究についてご質問がありましたら、いつでもお問い合わせください。なお、本研究は、博士論文として聖路加国際大学に提出の予定です。

研究者：関根 由紀

所属機関：聖路加国際大学大学院 看護学研究科 博士後期課程

所属機関住所：東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

連絡先：03-5550-2279

E-mail：13DN009-ts@slcn.ac.jp

指導教員：聖路加国際大学 看護学部 基礎看護学教授 菱沼 典子

本研究は、日本クリティカルケア看護学会の奨学金助成を受けています。

聖路加国際大学

学長 井部俊子 殿

研究への参加・協力の同意書

私は、「急性心不全患者における初回立位の可否に関連する要因の探索」について説明文書を用いて説明を受け、内容を理解し、この研究に参加・協力することに同意します。

日付： 年 月 日

氏名（ご署名）： _____

説明者（署名）： _____

聖路加国際大学 研究倫理審査委員会承認番号：15-055

聖路加国際大学

学長 井部俊子 殿

研究協力の同意撤回書

私は、「急性心不全患者における初回立位の可否に関連する要因の探索」について研究 協力の同意しましたが、この度、同意を撤回することにしましたので、通知します。

日付： 年 月 日

氏名（ご署名）： _____

調査日 年 月 日

被調査者氏名 / 番号

年齢 歳 性別 (男 ・ 女)

Barthel Index

食事

- 10：自立。必要に応じて自助具を使用して食物を切ったり、調味料をかけたりできる。
- 5：食物を切ってもらう必要があるなど、ある程度介助を要する
- 0：上記以外

車椅子とベッドの移動

- 15：移動のすべての段階が自立している（プレーキやフットレストの操作を含む）
 - 10：移動の動作のいずれかの段階で最小限の介助や、安全のための声かけ、監視を要する
 - 5：移動に多くの介助を要す
 - 0：上記以外
- （訳注：車いすを使用していない場合には、ベッド脇に設置した肘掛け椅子とベッドとの間の移動が安全にできるかどうかを評価する）

整容

- 5：手洗い、洗顔、髪枕き、歯磨き、ひげ剃りができる
- 0：上記以外

用便動作

- 10：用便動作（便器への移動、衣服の始末、拭き取り、水洗操作）が介助なしにできる
- 5：安定な姿勢保持や衣服の着脱、トイレトペーパーの使用などに介助を要する
- 0：上記以外

入浴

- 5：すべての動作を他人の存在なしに遂行できる（浴槽使用でもシャワーでもよい）
- 0：上記以外

平地歩行

- 15：少なくとも 45m、介助や監視なしに歩ける（補助具や杖の使用は可。車輪付き歩行器は不可）
- 10：最小限の介助や監視下で少なくとも 45m歩ける
- 5：歩行不可能だが、自力で車いすを駆動し少なくとも45m進める
- 0：上記以外

階段昇降

- 10：1階分の階段を介助や監視なしに安全に上り下りできる（手すりや杖の使用は可）
- 5：介助や監視を要する
- 0：上記以外

更衣

- 10：すべての衣服（靴の紐結びやファスナーの上げ下ろしも含む）の着脱ができる（治療用補装具の着脱も含む）
- 5：介助を要するが、少なくとも半分以上は自分で、標準的な時間内にできる
- 0：上記以外

排便コントロール

- 10：随意的に排便でき、失敗することはない。坐薬の使用や浣腸も自分でできる
- 5：時に失敗する。もしくは座薬の使用や浣腸は介助を要する
- 0：上記以外

排尿コントロール

- 10：随意的に排尿できる。必要な場合は尿器も使える
- 5：時に失敗する。もしくは尿器の使用などに介助を要する
- 0：上記以外

質問紙

この質問紙は、あなたが最近どのように感じているかお尋ねするよう編集されています。
次に挙げてある 14 の設問を読み、あなたのこの 1 週間のご様子に最も近いものに 1 つチェック
☑をつけて下さい。

日付：平成 年 月 日

1. 緊張感を感じますか？

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ほとんどいつもそう感じる | <input type="checkbox"/> たいていそう感じる |
| <input type="checkbox"/> 時々そう感じる | <input type="checkbox"/> 全くそう感じない |

2. 以前楽しんでいたことを今でも楽しめますか？

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 以前と全く同じ位楽しめる | <input type="checkbox"/> 以前より楽しめない |
| <input type="checkbox"/> 少ししか楽しめない | <input type="checkbox"/> 全く楽しめない |

3. まるで何かひどいことが今にも起こりそうな恐ろしい感じがしていますか？

- | | |
|---|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> はっきりあって、程度もひどい | <input type="checkbox"/> あるが程度はひどくない |
| <input type="checkbox"/> わずかにあるが、気にならない | <input type="checkbox"/> 全くない |

4. 笑えますか？いろいろなことのおかしい面が理解できますか？

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 以前と同じように笑える | <input type="checkbox"/> 以前と全く同じようには笑えない |
| <input type="checkbox"/> 明らかに以前ほどには笑えない | <input type="checkbox"/> 全く笑えない |

5. くよくよした考えが心に浮かびますか？

- | | |
|---|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ほとんどいつもある | <input type="checkbox"/> たいていある |
| <input type="checkbox"/> 時にあるが、しばしばではない | <input type="checkbox"/> ほんの時々ある |

6. 機嫌が良いですか？

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 全くそうでない | <input type="checkbox"/> しばしばそうではない |
| <input type="checkbox"/> 時々そうだ | <input type="checkbox"/> ほとんどいつもそうだ |

7. のんびり腰かけて、そしてくつろぐことができますか？

- | | |
|---|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> できる | <input type="checkbox"/> たいていできる |
| <input type="checkbox"/> できることがしばしばできない | <input type="checkbox"/> 全くできない |

8. まるで考えや反応がおそくなったように感じますか？

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> ほとんどいつもそう感じる | <input type="checkbox"/> たいへんしばしば、そう感じる |
| <input type="checkbox"/> 時々そう感じる | <input type="checkbox"/> 全くそう感じない |

9. 胃が気持ち悪くなるような一種恐ろしい感じがしますか？

- ☐ 全くない ☐ 時々感じる
☐ かなりしばしば感じる ☐ たいへんしばしば感じる

10. 自分の身なりに興味を失いましたか？

- ☐ 明らかにそうだ ☐ 自分の身なりに十分な注意を払っていない
☐ 自分の身なりに十分な注意を払っていないかもしれない
☐ 自分の身なりには十分な注意を払っている

11. まるで終始動きまわっていなければならないほど落ち着きがないですか？

- ☐ 非常にそうだ ☐ かなりそうだ
☐ 余りそうではない ☐ 全くそうではない

12. これからのことが楽しみにできますか？

- ☐ 以前と同じ程度にそうだ ☐ その程度は以前よりやや劣る
☐ その程度は明らかに前より劣る ☐ ほとんど楽しみにできない

13. 急に不安に襲われますか？

- ☐ 大変しばしばにそうだ ☐ かなりしばしばにそうだ
☐ しばしばでない ☐ 全くそうでない

14. 良い本やラジオやテレビ番組を楽しめますか？

- ☐ しばしばそうだ ☐ 時々そうだ
☐ しばしばでない ☐ ごくたまにしかない

＊以下は、今のお気持ちについてお答えください。

15. 立位になることに対するお気持ちをお答えください。

- ☐ 自信がある ☐ 少し自信がある ☐ どちらでもない
☐ あまり自信がない ☐ 自信がない

以上です。ご協力ありがとうございました。